

2024年10月26日 BM子どもネット研究会 セッション3 テーマ交流会(企画要旨)

「母語は大切です」保健師と共に行う親子のことばを育む取り組み

企画者：小林木綿（大府市文化スポーツ交流課）

共同企画者：三井晶子（ヨーク大学）

愛知県大府市では保護者が最も流暢に話すことのできる言語、母語で子どもを育てることは非常に重要であり、その大切さを周知することを目的として「母語は大切です」というチラシ（6か国語）を作成し、2024年1月より保健師の協力のもと、家庭訪問（赤ちゃん訪問）や乳幼児健診（4カ月、10カ月、1歳6カ月、2歳、3歳）の際に該当する保護者に配布しています。また、本市で実施している外国にルーツを持つ子どもたちを対象とした就学前プレスクールや、多文化子育てサロンなどの外国籍の方を対象としたイベントの実施時にも配布しています。

テーマ交流会では、まず多文化共生社会の実現に向けて取り組んでいる大府市の活動を紹介します。特に、外国にルーツを持つ子どもたちへの支援については、本市では継続的に保護者や子どもと関わることを重要であると考えているため、就学前から小学校への接続を見据えた長期的な視点で支援を行っています。その支援の一環として、母語の大切さを周知する取り組みを実施していますが、実施に至った経緯、取り組みに参加した保健師の声、当事者の声を簡単に紹介させていただきたいと思います。そして、これまでの取り組みから私たちが感じている母語の重要性を実感していない保護者へのアプローチの仕方などの課題について、みなさんのご経験、取り組みを伺い、今後の取り組みをより良いものにしていきたいと考えています。よろしくお願いいたします。